

順天堂医院医療体験プログラム

1. 活動時期

2024.7.29-31

2. 参加のきっかけ

もともとこのプログラムのことをYouTubeで見たことがあり興味があって、今回学校に一枠いただいたので応募をしました。

～読売オンライン 動画記事～
<https://www.yomiuri.co.jp/stream/1/24092/>

高校3年 谷林 明依



3. 活動内容

夏休みの3日間、順天堂大学附属順天堂医院心臓血管外科の先生方の手術やカンファレンスの見学や、手術後の患者さんとのお話、先生方とのお話をしました。3日とも朝のカンファレンスに参加させていただき、その後に1日目は天野先生のバイパス手術、2日目は田端先生のダヴィンチによるロボット手術、3日目は中西先生による小児の心臓手術を見学させていただきました。また、2日目には1日目に天野先生の手術を受けられた患者さんとお話をさせていただいたり、3日目には小児病棟を見学させていただくことが出来ました。

4. 参加した感想

今まで手術室に入ったことも、病棟に入ったことも、集中治療室にも入ったことがなくて、3日間の経験全てが初めてのことでした。実際に手術室に入って、多くの人が手術前の準備から手術までに関わっていること、ドラマなどの緊迫した雰囲気とは違うことに驚きました。中西先生がおっしゃっていたように一人の患者さんの命を助けることができる手術は、医療従事者だけでなく、病院の掃除をする方や研究者、医療機器のメンテナンスをする人など、たくさんの人の努力が積み重なってできるのだと実感しました。また、ロボット手術を見学して技術の発達に伴って患者さんへの負担が減るなど変化していく最先端の医療にも興味が深まりました。

また、先生方は本当に自分達の外科医という仕事に誇りを持っていて、患者さんことを第一に考えて信頼してもらえる、安心している医師でいることを常に考えている姿を間近で見て、自分がどのような医師を目指したいかをはっきり想像することができました。

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

自分が医師になってからどのような姿を目指したいのかはっきりとイメージをすることができる、より強く医学の道を目指したいと思えるとても貴重な機会になりました。医学部を目指す人は高校生のうちから医療の現場を間近でみることのできるチャンスだと思うので是非応募してみてください。

日本地理学会 2024年春季学術大会 高校生ポスターセッション

高校3年 服部羽衣

1. 活動時期

: 2024.1月～3月20日

2. 参加のきっかけ

学校の先生に勧められて参加を決めました。

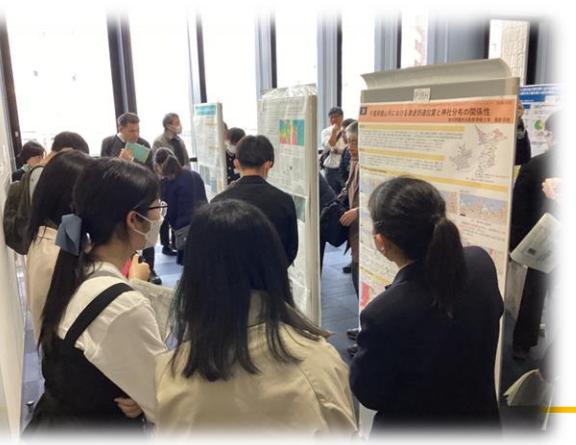
3. 活動内容

高校生ポスターセッションは、地理学に関する研究について高校生が発表する大会です。発表するためには事前に400字以内の要旨を作り、それをもとに審査で採択される必要があります。私は「千葉県館山市における津波到達位置と神社分布の関係性」について発表を行いました。審査員の人や聞き手の方にどうしたら自分の研究をわかりやすく、聞きやすいように説明できるかを考えて、発表しました。

4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

地理学会で発表するという目標を持てたことで、研究への熱意も高まりました。研究発表に向けて、自分の研究で足りない点がどこかを見つめ直すことができたり、自分の研究の1番主張したいことはどれかなど、改めて自分の研究について見直すことができました。参加することで、研究を行っている他の高校生と交流することができ、他の発表の場所で、違う学校の人に「地理学会で発表聞きました」と声をかけられることもあって、他校の高校生と交流することができたのがとてもいい経験になりました。



②活動中の面白かったポイント

他の高校生の発表を聞くことができる時間があり、自分の知らない方法やサイトを教えてもらったり、他の人と連絡先を交換して研究について話したりできて貴重な経験でした。また、地理学会の会員の人にも発表を聞いてもらえたので、さまざまなアドバイスを頂けたことも貴重な経験になりました。



5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

校内での発表だけではなくて、校外で発表することで他の高校生が行っている研究を学べたり、交流することで自分の研究にも役立てると思うので、ぜひ校外での発表にもチャレンジしてみて欲しいです！

日本地球惑星科学連合2024大会 高校生ポスター発表

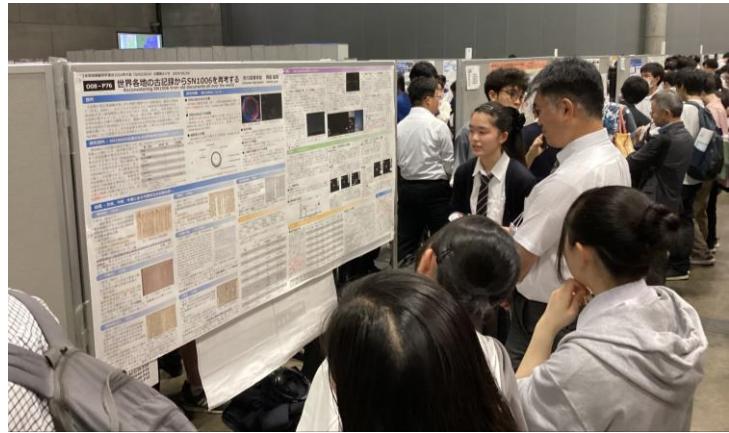
高校3年 岡田 結菜

1. 活動時期

2024.5.26

2. 参加のきっかけ

SSHで研究をしている中で、日本地球惑星科学連合という地学の研究をしている学生が集まり発表する場があると先生から紹介され参加を決めました。



3. 活動内容

日本地球惑星科学連合では、高校生が地球惑星科学分野で行なった学習・研究活動をポスター形式で発表する高校生によるポスター発表が行われています。私は、1006年に観測された超新星(SN1006)は世界中の古記録に観測された内容が記されているにも関わらず、色や出現期間などの科学的情報に当一の見解がなされていないことを知り、再度古記録を収集し、記されている情報からSN1006を再考するという研究を発表しました。

4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

それまでに何回か外部で発表をしたことはあったが、それらと比べると規模が大きく参加人数も多いうえに、昔から人前で話すことが得意ではなかったので、当日まで上手く自分の研究を伝えることができるのか不安があった。しかし、実際に発表を始めてみると自分が思っているほどは緊張せず、伝えたいことをちゃんと話すことができました。

②活動中の面白かったポイント

発表を聞いてくれた人から質問されると、自分の研究に興味を持ってもらえたのではないかと思い嬉しくなりました。また、発表後に「面白かったよ」、「これからも頑張ってください」という声掛けをしていただくこともあり、研究を今まで頑張ってきて良かったなと思いました。

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

予稿やポスターを作成するのは大変ですが、自分の研究を完璧に理解していく、他の人に伝えることができるのは自分自身だけです。なので、自分の研究に自信を持って発表してください。学校内で発表するだけでは得ることができない新しい考え方や視点を知ることができます。

HLAB自己分析ワークショップと大学生との座談会イベント企画



1. 活動時期 2024.4/20

高校3年 前田 紗希

2. 企画のきっかけ

高2の夏にこの団体のサマースクールに参加した後、自分の学校の生徒にその体験をおすそ分けしませんか？という企画のお誘いをいただいたこと。

3. 活動内容

企画サイドとしては、ワークショップの内容を学校側に伝える企画書や宣伝のためのポスターの作成、外部団体と学校の橋渡し役などが主でした。決まった何かをやるのではなく、「自分が持ち込んだこの企画をいかに良くするするか」ということから何ができるのか主体的に考え、例えば

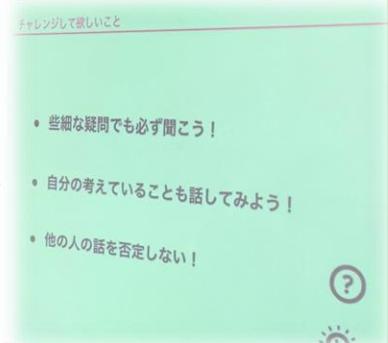
先生と交渉し、学年集会で対象学年全員に宣伝するなどの活動を行いました。当日はワークショップ内で一部のコーナーを担当し、自分がサマースクールに参加して感じたことを参加者目線で発表しました。



4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

これまで市川学園で生徒が主導してこのようなワークショップをやったことはなかったので、初めての試みとなり不安もありました。ですが、やり切った後は達成感と参加してくれた後輩への感謝でいっぱいになりました。また一口に企画と言っても様々ことをさせて頂く経験ができ、自分でできる事が増えて自信がつきました。



②活動中の面白かったポイント

自分が企画段階で、「このような対話をしてくれたら嬉しいな」と思っていたビジョンが実際にワークショップ内で行われていた時や、当日会場にポスターが貼られているのを見た時は、この企画を頑張って開催した意味を感じ、面白いなあ！と思いました。

③参加者の声

高2女子 現役大学生と関わる機会が自分は全然なかったので、生の声が聞けてよかったです。マジでいい機会になりました！

高1男子 自分の希望する学部の先輩が多くてとても話が弾んだ。そして、意外と彼らも私と同じ悩みを抱えているのだと心を軽くすることができた。真剣に話を聞いてくれて嬉しかった。

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

課外活動の派生に限らず、やってみたい企画があったら「やってみたいです！」と先生に相談してみてください！学校には少し至らないところがあっても、本気でぶつかればあなたの企画を応援してくださる先生がたくさんいますよ！

小室コンサルティンググループ 高校生夏季インターンシップ

最も才能のある学生が世界から集うインターンシップ

- Internship Where The Most Talented Students Gather From Around The World -

1. 活動時期

2024.8/9～8/11

高校2年

那須 航

2. 参加のきっかけ

企業や経営に興味があり、コンサルタントの業務経験も得たかったので、このプログラムを見つけて応募しました。

我々の目標は日本一ではなく、世界一
「再び」ナンバーワンとしての日本



3. 活動内容

コンサルティング業務の理解、コンサルティング業務における企画・提案、大学生インターンシップとの共同ワークショップを軸として行いました。まずは各々がテーマに見合ったビジネスプランを作成し、プレゼンを行いました。ビジネスプランもアイデアの卓越性や新規性、そして市場分析や詳細な収支明細予定表などが重視され、ビジネスの大本を自分で制作しつつ、他のビジネスモデルの分析やコンサルティング業務として顧客案件の解析、更に経済と現在の日本における課題等を学びました。

4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

起業や経営には興味があったものの、それを実際に高校生という身分で学ぶことの大変さを感じていました。実際に選考に合格してからはついていけるのかという不安もありましたが、プレゼンなどの準備に忙殺されているうちにインターンが始まりました。まずは小室さんの知識量に圧倒され、そして仲間とともに3日間猛スピードで駆け巡ったのですが、そのプロセスを通して経営や経済という抽象的概念を明確にすることができ、自分の夢の実現に一歩近づきました。

②活動中の面白かったポイント

参加者のビジネスアイデアはどれも面白かったです。今回のテーマはセミセルフ・ビジネスモデルであり、この概論を理解することにとても時間がかかりましたが、だからこそこのプレゼンはとても思い入れの強いものとなりました。また、日本有数のトップコンサルタントの視点から、経営のお金や税金、儲け方などほかでは聞けない裏話をたくさん聞くことができ、目から鱗の思ひでした。

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

書類審査はしっかりと自分の夢に真摯に向き合い、思いをエッセイにぶつけてください。面接はかなり大変です。どんなことを聞かれ打ちのめされても負けない、強い軸を持って臨んでください。

基本的に起業などに興味がある高校生、日本人というのは未だにアウトローなので、あまり口に出したりできない人も多くいるかと思います。そういう人たちにこそ、自分の夢が失われないうち、心の炎が消えないうちにこのような課外活動に積極的に参加して仲間を多く見つけてほしいです。私自身も起業家としての活動において培ってきた人脈が一番の宝物です。是非人生をかけて成したい夢を見つけ、全力で掴みにいきましょう。

何かあればぜひご連絡ください！

令和6年度(第22回) 江戸川区青少年の翼

1. 活動時期 2024.6.30～2024.9.8

高校2年 鷺見 拓維

2. 参加のきっかけ

「世界」を直接体験したいと思って留学プログラムを探していた中、学校からの案内でこの課外活動を知り、参加する事にしました。



3. 活動内容

「青少年の翼」は、江戸川区在住の中高生向けの海外派遣事業です。「青少年の翼基金」によって運営されており、平成15年から始まりました。

オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ合衆国の中から1カ国を選んで応募し、選考の末、各国20名が派遣されます。私は海外での教育について学びたかったので、教育水準が高いと言われるオーストラリアを選びました。まず事前研修で派遣先での出し物や発表の準備をし、そして現地ではホームステイや学校体験を行い、帰国後の事後研修では、日本で行う帰国報告会に向けた準備をします。

4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

参加する前は、一切日本語がない現地での生活を乗り切る事が出来るか不安がありました。しかし、実際に現地に行ってみると、言いたい事が伝わらない時に無意識のうちにジェスチャーなどを用いて必死に伝えようとする事ができ、その結果伝わったという事が多くありました。これらを通して、言葉が上手く通じ合わない中では、常に積極的にコミュニケーションを取ろうとする意欲が大切なのだと気が付きました。また、世界中の人と繋がる事や、将来海外で働くといった事にも、参加する前以上に興味が湧きました。

②活動中の面白かったポイント

私のスクールバディはスポーツが好きだったため、現地の学校では私も休み時間にずっとスポーツをしていました。最初は上手くみんなとコミュニケーションが取れなかったのですが、スポーツを通して多くの友人を作り、共に楽しむ事ができ、人と繋がる手段は言語だけではないのだという事を実感しました。

また、オーストラリアは多民族国家なので、現地の学校では様々な背景を持った生徒と交流する事ができ、新たな価値観を得られた気がします。

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

私は海外を訪れてみて多くの事を学べました。そしてそれらは、日本にいるだけでは決して得られないようなものでした。海外に行く事に対する不安を理由に参加をやめなくて良かったなと思っています。また、学校も学年も異なるメンバーで活動する事になる青少年の翼では、学校として行くプログラムとは違った経験があるはずです。学校が異なる相手と関わると様々なインスピレーションを受ける事が出来るし、学年が違えば自分には無い発想が出てくる事もあります。中高生のうちに、この「青少年の翼」でぜひ留学にチャレンジして欲しいと思います。



スリランカ留学【医療ボランティア】

1. 活動時期 2024.7.21～8.4

高校2年 山地 瑠羽

2. 参加のきっかけ

吉岡秀人さんの『飛べない鳥たちへ-無償無給の国際医療ボランティア「ジャパンハート」の挑戦-』という本に出会ったことである。作者が医療器具は聴診器一本のみで医療環境が劣悪なミャンマーに行き、無医村の医療にかつてない影響を与えて貢献したことが記されており、そこで描かれている姿は、私に強い信念と行動する勇気があれば、社会に大いに役立つことができるということを教えてくれた。



3. 活動内容

スリランカのゴールにある Teaching Hospital Karapitiya で精神科、内科、耳鼻咽喉科、歯科、救急病棟、小児科、発熱外来を視察した。その他に、基礎ヘルスケアを提供する医療キャンプを行い、水銀血圧計による血圧の測定、血糖値の測定をし、簡単なカルテを書いた。安全に医療提供を行うためにセミナーを受けて実践を繰り返した後に、老人ホームや町の施設に出向き、実際に住民に対して測定を行った。自動測定器の普及が遅れており、血糖値はある程度の太さがある針を指に指し、血液を採取して機械に入れ込むという方法で測定した。また、火傷と出血の応急処置について説明したポスターを作成し、学校に配布しに行く活動やビーチクリーン活動も行った。

4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

今回の活動を通じて自身に積極性が身についたと感じる。看護師は英語が通じず、医者は英語が話せるが人数が少なく常に忙しそうにしていたため、基本的には見学しかできない状況であった。そこで、一つでも多い学びを得ようと、合間に縫って医師に質問したり、研修を行なっている世界中からの医療学生に説明を求める等、自ら積極的に話しかけることを心がけた。その結果、スリランカを含む発展途上国における医療の問題点や、医療機器の普及が遅れている中でどのような工夫が凝らされているかを知ることができた。ただ傍観しているだけでは学びに限界があったので、その状況から一步踏み出せたことは私を成長させたと思う。

②活動中の面白かったポイント

手術中の患者の側にどれだけ近づいても良いと言われ、切開から縫合までを覗き込んで見たり、患者の死に立ち会うことができた等、医師の仕事のリアルな面を観察することができてとても興味深かった。また、活動拠点では世界各国からの医療学生が集まっており、医療学生を相手に講習を行っていた医師からの勧誘を受けて、急遽一緒に講習を受けることになった。その講習内で心肺蘇生法のレクチャーを受け、日本のやり方と相違点をたくさん見つけることができて面白さを感じた。



5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

私は新しいことに挑戦するのに躊躇することが多く、不安をたくさん募らせたまま留学しました。学校のプログラムではなく個人手配での留学であり、自身でなんとかしなければいけないという状況に沢山遭遇しましたが、人目を気にする必要がなっかたので、驚くべきほどにその状況を楽しめました。留学するのに不安要素を抱えて躊躇している人もいると思いますが、そういう人にこそ個人手配で1番自分の興味に合ったプログラムを見つけるという選択肢もあることを伝えたいです。

コトクリエ探究キャンプ Grow & Leapまちづくりワークショップ

1. 活動時期

コトクリエ 2024年8/8～8/9
Grow&leap 2024年8/19

2. 参加のきっかけ

都市開発やまちづくりの興味を持っていてインターネットで調べていたら見つけました。

3. 活動内容

・コトクリエ探究キャンプ

大和ハウスのコトクリエという施設のある、奈良県大和郡山市を魅力的な街にするというテーマのプログラムでした。はじめに大和郡山市役所まちづくり戦略課の方から市の歴史や現状を聞き、その後市内散策で市を実際に学んだ後にグループワークをしました。グループワークでは市の課題抽出後解決策を話し合い、最後には解決策の提案発表を行いました。

・Grow & Leap

前半は積水ハウスの藤原さんからまちづくりの基本を学び、自分自身がまちづくりにおいて大切にしたいことを話し合いました。後半は山梨県上野原市にある「コモアしおつ」というまちを事例に取り上げてここに住みたいか、どうしたらもっと住みたくなるかについて議論しました。

4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

街や建物は一度創って終わりだと思っていたけれど、実際には維持やアップデートといったようにつくり終わった後にもやることはあり変化させていくことができるということを知って、自分が将来に建設業にかかわるならば、アフターケアのこともしっかりと考えたいと思うようになりました。

②活動中の面白かったポイント

それぞれの育った環境によって意見が全く異なることです。後半に話したコモアしおつは最寄りの四方津駅から八王子駅まで直通で約30分、新宿駅まで約70分の距離にあるのですが、話し合いの際に宮崎や岐阜などの地方出身者はアクセスが良いと発言していた一方で東京や首都圏出身者はアクセスが悪いと感じていて、生まれ育った環境による受け取り方の違いが垣間見て面白かったです。

高校2年 林 葉音



5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

ネットで検索すると様々なイベントが出てくるので、興味があるものだけでも自分で調べて参加してみてください！

Touch the Future 医療体験 南砺市民病院

1. 活動時期

2024.08.03
～08.10

2. 参加のきっかけ

学校でポスターを見て、実際の医療の現場を体験できることに魅力を感じました。

高校2年

赤坂 美咲

3. 活動内容

5日間、富山県南砺市病院の中で様々な体験をしながら、実際の医療現場を学びました。手術見学やドクターカー見学、他にも様々な科を担当患者さんを受け持ち、お話をしながらどうしたら幸せに過ごすことができるかを考えました。



4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

今まで救命救急医、小児科医、外科医で迷っていたのが、手術に感銘を受けて、外科医志望になりました。また、初日は遠慮していて自分からどんなことをしたいか、意思表示をするのが難しかったのですが、病院で研修できるという貴重な機会を無駄にしないように、自分から積極的に意思表示ができるようになりました。さらに、視野を広く持ち、さまざまことに目を向けることができるようになりました。様々な場所で見学をさせていただく中で、見るだけでもたくさんのことを見聞きし、患者さんや医師、看護師や理学療法士の細かい動作に対しても注意深く観察し、疑問に思ったことはすぐに聞けるようになりました。

②活動中の面白かったポイント

手術見学がとても興味深かったです。体の中の臓器が実際に動いているのを見ることができたのがとても印象的でした。人間が生きているとこんなにも感じることができたのは初めてでした。がんの切除の手術を見学しましたが、実際に切除した癌腫瘍を触ることができたりと、本当に貴重な体験ができました。また、次の日に病理部でその腫瘍をホルマリン漬けにしたものを見て、触ったこともとても印象的でした。プレパラートで様々な病気の表皮細胞も見ることができた。薬剤科の中に入ったり訪問医療に同行したり、普段では絶対にできない体験をたくさんすることができた。また、朝、夜ご飯はメンバーと一緒に自炊をしており、メンバーとの仲もとても深まりました。



5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

普段の生活では絶対にできないような体験みをすることができました。少しでも医療に興味がある人はぜひ応募してみてください！

HLAB サマースクール EHIME-DECARBO

1. 活動時期

2024.8.14～8.20(6泊7日)

2. 参加のきっかけ

学校に掲載されていたポスターと先輩の紹介でサマースクールの存在を知り、英語で活動をすることや自分の知らない場所に行けることに惹かれて参加しました。



3. 活動内容

サマースクールは全国4か所で開催され、私は愛媛県大洲市で6泊7日の宿泊研修に参加しました。サマースクール中には海外大学生から幅広い分野の授業を英語で受ける「セミナー」や大洲市やその他の地方で活躍されている社会人の方との交流、自己分析ワークショップなど様々なプログラムがありました。また、サマースクール期間中は高校生と日本人大学生、海外大学生で構成されるhouseという少人数グループで、その日に感じたことや自分の将来について話す時間がありました。

4. 参加した感想

①サマースクール中、サマスクール後に感じた変化

参加前は私の人見知りな性格や英語を話すことへの不慣れさがあり、不安と楽しみが半分づつでした。2日目までは不安と孤独感で早く家に帰りたいと思う時もありましたが、最終日にはまだ愛媛にいたいと思うようになっていました。

サマースクールを通して、私には2つの大きな変化がありました。1つ目は英語で会話をすることを楽しいと感じるようになったことです。私は参加前は英語で話す機会も勇気も無く、英語をあくまで教科の1つと捉えていました。しかし、英語で海外大学生と会話する他の参加者に刺激を受け、自分も英語を話せるようになりたいと思い、自分から海外大学生に話しかけるようになりました。2つ目は自分の将来についての考え方です。サマースクール中には普段関わることのない社会人の方や異なる年代の方と話すことが多く、私は自分の将来やキャリアに対する考えはとても視野が狭く、とらわれたものであることに気づきました。その結果、私の将来の理想像は大きく変わりました。

②サマースクールの良いところ

プログラムはもちろん魅力的でしたが、私は普段は打ち明けられない悩みでも話してみれば誰かが真剣に向き合ってくれるということがとても心強かったです。自分の将来についての悩みが増える高校生にはこの環境がぴったりだと感じました。

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

自分を変えたいと思う人は、環境や関わる人を変えてみるがおすすめです。自分の向き不向き関係なく、課外活動を恐れず、勇気を出して飛び込んでみて欲しいです！

高校2年 杠 沙映

JAXAエアロスペーススクール2024

1. 活動時期

2024.7/31～8/2

高校2年 男子生徒

2. 参加のきっかけ

Classiのお知らせを見て興味を持ち、いい経験になると思い参加を決意しました。



3. 活動内容

JAXAエアロスペーススクールは、高校生が協力して「宇宙航空ミッション」に取り組む宿泊型プログラムです。プログラムの内容としては、宇宙航空分野の研究開発を支える様々な講義・実習の体験、JAXA施設内の最先端技術を備えた航空機や研究設備などの見学、チームで協力してアイディアを出し合いミッションに取り組むチーム対抗戦、研究室訪問などがあります。全国のJAXA事業所が会場となり自分が行きたいところに応募し書類選考を勝ち抜けることができると、全国からくる高校生の仲間と非常に有意義な時間を過ごすことができます。

4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

参加することで、航空宇宙に対する熱量や知識はもちろん、同じ興味を持つ仲間との会話や意見交換で普段の生活では得られない新しい観点や考え方、将来の展望などを得ることができました。自分の新たな可能性を探るとてもいい機会でした。



②活動中の面白かったポイント

様々なミッションに取り組むチーム対抗戦が特に面白かったです。具体的には、機体のモデルを作り強度を競ったり、騒音をできる限り減らしているかなどとJAXAが実際に研究していることをチームで協力して取り組みました。



5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

航空宇宙に興味はあるけど全然詳しくないって人でも大歓迎。この2泊3日で様々な講義やシミュレーション体験、思考力を使った実験などなど、また他の仲間たちとの交流を通して自分の将来を考えるきっかけになります。そのきっかけを創る第一歩をぜひ歩んでみてください。

読売新聞×三菱商事 海外プロジェクト探検隊

1. 活動時期

2024.8.5~8.10 @インドネシア ジャカルタ

2. 参加のきっかけ

今年の春にニセコ語学留学に参加し、異文化交流について学び、さらに見聞を深めたいとちょうどこの活動の募集があり、応募しました。

高校2年 小平 琉生



3. 活動内容

- ・三菱商事ジャカルタ駐在事務所 訪問
- ・BSD City視察
- ・現地市場視察 (pasarMayestic)
- ・ワヤン・ウィンドウ地熱発電所 (バンドン) 訪問
- ・三菱ふそうトラック車両生産組立工場(KRM)視察
- ・三菱ふそうトラック販売・サービスオフィス (KTB,MMKSI)訪問
- ・三菱自動車新車販売・訪問(PMJ)・各種インタビュー・体験 .ローソン店舗視察
- ・インドネシア大学 訪問・交流
- ・国際交流基金 訪問・座学



4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

インドネシアは経済発展が著しく、活気に満ちた国という印象でしたが、いざ実際に現地を訪れてみると、経済発展の目覚しさが見える裏で、まだまだスラム街が多く存在し、貧富の差を感じました。

ただ、若者の国という点では少子高齢化社会の日本とは真逆で、これから益々の発展が期待できる国であることを強く思いました。

②活動中の面白かったポイント

やはり、違う学校の人たちとの交流が自分自身の成長を促してくれました。考え方の違う人と意見を出し合い、一つのものを一緒に作ってしていく過程で協調性が生まれ、短期間の中で仲間意識が芽生えました。また、インドネシアでは英語が通じなかったのですが、「ありがとう」や「こんにちは」などのちょっとしたインドネシア語の挨拶を覚えていくことで現地の人との交流がスムーズになったと思います。

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

課題活動、とりわけ海外を舞台にしたこのような活動はなかなかチャンスはありません。自分磨きのためには絶好の機会です。また現地の大学生など年の近い友達もできるチャンスがそこにはあります。「どうしようかな」と迷っているなら、ぜひその扉を叩いてみてください。きっと将来の糧になるはずです。

第13回 日本高校生パーラメントリーディベート連盟 新緑杯 東日本大会

1. 活動時期
: 2024.6.16

2. 参加のきっかけ
: 国内の英語ディベートの大会として有名な新緑杯に出ることを今まで目標としていた。

高校2年 稲葉 彩乃



3. 活動内容

: 1チーム3人の短縮されたノースアメリカン型(肯定側と否定側が交互に7分のスピーチを2回ずつ行い、最後に否定側、肯定側の順番でそれぞれ4分のスピーチを行う)のディベート大会で、西日本大会の1位・2位との決勝をかけて戦いました。高校生の中でも国際大会の日本代表を務めるディベーター達や、私もみんなもちょっと憧れているような高校生ディベーターが多く参加していて、非常に有意義な大会でした。全部で4試合あり、最後は初心者部門、経験者部門でのそれぞれのベストスピーカー、チーム総合が発表されました。今回は32校74チームが参加し、市川高校からは初心者と経験者チームの2チームが参加しました。当日までみんなでスピーチの構造の型を教え合って勉強したり、議題の分析の方法を勉強していました。当日は経験者チームで8位を取り、初心者チームの後輩はベスト5になりました。

4. 参加した感想

① 参加する前と後の変化

今まで市川では帰国生が多く在学しているにも関わらずディベート部などのディベートを勉強できる環境がありませんでした。2年くらい前から後輩達と私の有志らがディベートを部活か同好会にしようと努力し、今は英語部の中で活動していますが、それでも有志で教え合い、夜にzoomなどを活用して自主練することがメインになっています。自分達で練習の内容を考え教え合うのは楽しみもありましたが、それ以上に経験と技術を受け継いでいる他校のチームに対して歯が立つか不安でした。それでも今回のように他校のチームと交流し、よい結果を出せて達成感を感じました。次に参加する後輩がいれば今回の技術と経験を引き継いでより良い結果を出してほしいです。

② 活動中の面白かったポイント

1試合目を負けたあとにジャッジからの講評を聞いて、チームのスピーカーの役割を今まで練習したことのないものに変えたら逆転できた。対戦相手が模擬国連や他の課外活動で会ったことのある子が多く、コミュニティーでの交流ができた。

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

: チームで協力してどの役割が得意か考えるのが大事だと思います。ぜひ一緒に練習しましょう！！

第3回 POLUS 木造住宅インターハイ

1. 活動時期

: 2023.12.1～2024.4.26

高校2年 中村 有理紗

2. 参加のきっかけ

進路で悩んでいた際に建築学部に興味があり、建築がどういうものなのか身をもって知りたかった。少しでも進路選択のきっかけになればと思い挑戦しました。



3. 活動内容

与えられた「ボタニカルガーデンハウス」というテーマを自分なりに解釈し、テーマに沿った家を考え、設計図を書き、模型を制作しました。最後に、制作した家の主旨・図面・模型材料・模型材料費・建築模型写真を載せたA2サイズのケント紙を作品として設計部門に提出しました。

4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

作品の制作に取り掛かり始めた頃は、自分が期限内に作品を制作することができるのか不安で、建築に関して何も知らなかつたので作品を提出するまでの見通しが全然見えませんでした。しかし、先生と建築学部に進学した卒業生に助けてもらいながら作品を完成させて佳作として選ばれたことで自分の自信につながり建築学部への興味がより一層増しました。またこのコンテストを通して普段、学校では学べない建築学に触れて少し知識を増やすことができました。

②活動中の面白かったポイント

少しでも建築に触れようと思い休日に本屋で建築雑誌を読んだりしていました。世の中にはとてもユニークなデザインの建造物がたくさんあり大変魅了されました。また、このコンテストの自分以外の入賞作品の自分にはない、楽しげな発想や複雑な造形を見るのが楽しかったです。

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

少しでも建築学に興味がある人は挑戦してみてほしいです。何もわからないところからのスタートでもすごく頼もしい先生と卒業生が助けてくれます。少しでも気になるコンテストがあったら、まずは先生に相談してみてください。

世界各国の友達とサッカー in Vancouver!!!!

1. 活動時期
2024.3.16～4.7

高校2年 南 健介

2. 参加のきっかけ

英語が好きで、日常的に英語に触れたいと思った事がきっかけになりました。将来の夢にも活かせるという事もいいきっかけでした！



3. 活動内容

VGC international schoolに英語を学びに行き、その間にサッカーやバスケなどのスポーツ、観光や海外の友達との遊びなどを通じた異文化交流をしてきました！その中でもサッカーが特に楽しかったです。色々な国の友達が同じルールの中で差異なく戦うという事が新鮮で、盛り上りました！

4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

参加する前は言語や文化の違いで不安を抱えていました。しかし、事前に英語を勉強することでカナダで様々な人と関わりを持つことが出来て、世界各国に対する心の距離感がなくなりました！そして、英語で日常を過ごすというとても貴重な経験をしたことによって英語にも自信が溢れて、さらに英語が好きになりました。この活動によって海外に対する興味が止まらなくなりました。また行きたいです！

②活動中の面白かったポイント

挨拶の文化がとても面白かったです。カナダではハンドサインで挨拶したり、日本と違ってハグが日常的であったり、とても面白かったです。みんな明るく、過ごしてて話が絶えなかったこともいい思い出です！お別れの時なんて、メキシコ人の友達が見送りに来てくれて、涙が溢れました。



5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

海外に一人で留学に行くという事は、寂しそうでハードルが高そうに見えますが、一つ一つの経験が人生初の体験で、かけがえのない最高の経験になります！ぜひ勇気を出して海外に異文化交流しに行き、世界各国の友達を作つてみてください！

2023年度 ニュージーランド研修

1. 活動時期: 2023.3/17~3/27

高校2年 松浦 初奈

2. 参加のきっかけ

ニュージーランドの公用語には英語だけでなく、マオリ語やニュージーランド手話があります。このことを知ったとき、ニュージーランドに行ってみたい、ニュージーランドの人たちとのコミュニケーションを通してニュージーランドの生活を感じてみたいと思い、ニュージーランドに行くことを決めました。

3. 活動内容

1日目は成田空港に夕方に集合し、機中泊をしました。飛行機を乗り継いで南島のダニーデンに到着し、2日目から研修メンバーはそれぞれのホストファミリーとホームステイが始まりました。3日目から6日目までは午前は授業、午後はニュージーランドならではの文化をスポーツや博物館を通して学びました。放課後はホストファミリーと一緒に楽しい時間を過ごしました。研修の後半には三連休があり、ホストファミリーがダニーデンのさまざまな場所に連れて行ってくれました。そしてフェアウェルパーティという交流会で日本文化のかるたと習字をニュージーランドの学生たちと楽しみました。

4. 参加した感想

①ニュージーランドでの気づき

ニュージーランドに行って感じたことは生活に余裕があることです。今まで日本で過ごしてきたので、日本の生活で疑問に思うことはありませんでしたが、ニュージーランドに行くと日本はこんなに忙しなく毎日を過ごしているのかと驚くほどゆっくりとした時間が流れていて海外にはこういう毎日の過ごし方があるのかと新たな発見をしました

②活動中の面白かったポイント

・ダニーデンはとにかく坂が多く、車での移動がまるでジェットコースターみたいで楽しかったです。また、研修のメンバーのみんなで世界一傾斜が強い坂を登り、すごくしんどかったのですが、とても楽しかったです!!

・ホストファミリーみんなで夕飯を食べた後、洋画やカードゲームなど楽しい時間を過ごせたことです。たまにホストファザーとバディがアイス買いに行く?と突然言い出して、夜遅くにアイスを買いに行って食べたのが良い思い出です。



5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス経験

ホームステイは語学力を伸ばす最高の経験だと思います！！英語に自信がない方、海外に行ったことがない方、結局はガツツです！行ってみたいと思うのなら是非チャレンジしてみてください!!

Oxford Medical Summer School 2024 with Oxford Royale Academy

1. 活動時期

2024. 7.28～8.10

高校1年 渡辺 美羽

2. 参加のきっかけ

巣鴨高校で開催されたDouble Helixという医療について学ぶプログラムで、医療に关心を持ち、また、海外留学に興味を持っていたからです。



3. 活動内容

生物学、遺伝子学、ゲノム学、神経学、救急医学、解剖学などに分かれた講義を、イギリスの講師の先生達から学びました。各授業では、生徒達が積極的に意見を出し合い、ディスカッションする場が設けられていました。

このディスカッションでは、思想、文化、価値観、歴史的背景などが異なる多くの国々から生徒が集まっているせいか、教室の中では様々な意見や考えが飛び交っていました。そして最後の日には、生徒がそれぞれ二週間で学んだことを発表する場が設けられていました。



発表ボード作成



講義風景

4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

オックスフォードでの授業では、ほとんどの国の生徒が自分の意見を決して妥協せずにぶつけ合い、最後まで議論しあった上でまとめる、というスタンスを取っていました。私はこのような白熱したディスカッションに、はじめは知識、語彙力、そして経験の不足からなかなか参加することが出来ませんでした。しかし次第にそのスタイルに慣れてきて、私が事前に勉強してきた感染症の話題になったときに、勇気を出して参加する事が出来ました。今から考えると、私の出した意見は内容もそれを伝える語学力も十分であったとは思いませんが、みんなが私の意見に対して真剣に議論してくれたこと、この時の喜びは決して忘れることが出来ません。

②活動中の面白かったポイント

生徒達は、ヨーロッパ、アフリカ、アジア、北米、南米、ロシアなど本当に様々な国から参加していて、学年も高校1年生から3年生まで様々でした。それぞれの国の特徴なのか、その人の性格なのか、なかなか日本では味わえないすごくサバサバした反応が来ることもあれば、妙に距離感の近い反応が来ることもあり、はじめはかなり戸惑ってしまいました。でもみんな医療を学びに来た学生であるため、それぞれの国の医療の質問をすると、熱心に語ってくれたことが嬉しかったです。

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

留学に行くことを決めてからは、苦手な医学用語を勉強し、テーマに沿ったディスカッションが出来るよう質問を考えたりして一生懸命準備しました。留学するまでは緊張と不安でいっぱいでしたが、この挑戦は私にとって大きな力になりました。皆さんも、勇気を出して是非自分の学びたいことを追求してください！

イギリス短期言語留学

1. 活動時期

2024.8月13日～8月25日

2. 参加のきっかけ

友人がISAのプログラムでオーストリアへ行くと聞いて、自分も留学へのモチベーションが上がったため。

3. 活動内容

イギリスのロンドン郊外、ハーロウという市に約11日間滞在するホームステイプログラム。首都ロンドンや大学で有名なケンブリッジなど王道の観光地や、イギリスの貴族が居住していたカントリーハウスや滞在地域の博物館見学などの観光アクティビティを行いました。複数の観光や見学を通して、レッスンで習った英語を使ってみたりなど、イギリスの様々な文化を体験しました。



4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

初めての海外研修だったので、行く前は英語が苦手な自分がホームステイなんてできるのかととても不安でした。

しかし、実際行ってみると現地の人とのコミュニケーションもなんとかなりました。自分の中での海外へのイメージがよりよくなつたと思います。

②活動中の面白かったポイント

まず本場の英語に触れることが楽しかったです。日本人ではないネイティブと話すと自分の英語が意外と通じることや逆に何が通じないのかということが色々とわかりました。

また、ホストファミリーと一緒に過ごしたことも楽しかったです。僕たちはビーチに行きました。イギリスのビーチは日本とは違い、遊園地と融合していてとても楽しかったです。



5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

自分にはレベルが高いと勝手に思っていたホームステイ、実際やってみるとなんとかなりました。海外を恐れずぜひチャレンジしてみてください！

高校1年 堀出 大智

ケニアでサバンナ環境保護

1. 活動時期

2024年7月15日～8月10日

高校1年 岩谷 杏

2. 参加のきっかけ

環境保護に興味があり、インターネットで調べて見つけました。



3. 活動内容

主に自然保護区内でキリン、サル、野鳥、ライオンなどの野生動物の観察調査、他にも外来植物の撤去や水飲み場作りなどの力仕事も行いました。また環境保護活動だけでなく現地の幼稚園に行って現地の子供達とふれあったり、教室や机作りを一から行う、また民家を訪れてエコストーブを作るなどといった現地の人と関わることのできる機会もありました。休日は国立公園や赤道直下などの観光地に行ったり、ボートに乗って湖の上を渡るなど日々の活動とは違うケニアならではの体験をすることができました。

4. 参加した感想

・活動中の面白かったポイント

最も印象に残っているのは、野生動物の観察調査を行う時に車の屋根の上に乗りながら動物を探したことです。日本では危険だからやってはいけない、と言われるようなことを体験できて面白かったです。この観察調査で30匹近くのキリンの大群を見つけた時はとても感動しました。

夜7時半から10時くらいまで自然保護区内を車で周りながらライオンを探すというナイトサファリをしたことも思い出のひとつです。昼間のサバンナと違い、夜のサバンナは真っ暗なのでライトで照らしながら動物を探しました。



5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

初めて行くケニアでの生活に始めは不安を感じていましたが、気づけば一ヶ月経っていました。新しい文化や環境に触れたり、たくさんの人と出会ったことで一生に残る体験をすることができたのでとても楽しかったです。ぜひケニアに行ってみてください！！

Discover yourself

1. 活動時期 2024年8月6日

高校1年
女子生徒

2. 参加のきっかけ

インターネット上で目に見て、興味をもったからです。

3. 活動内容

Discover yourself は、特定の持病がある高校生・大学生を対象にしたキャリアセミナーです。将来の就職活動で病気を持っていることはどのような影響を与えるのかという不安や職場の環境についての質問に、様々な企業の方が答えて下さりました。オフィスツアーも開かれ、参加している企業によって違う特色を学ぶことができました。



4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

参加する前は「働く」とは何か真剣に考えたことは無かったのですが、それぞれの会社の仕事内容、同じ持病を抱えながら働く先輩方の言葉を聞いて、自分の将来について考えていかなければなど深く感じました。それぞれの会社のオフィスを回って話を聞く場面では、会社ごとに働くスペースの雰囲気が違っておりとても興味深かったです。思っていた「働く」とは異なる働き方や知らなかった業種が多くあり、それを知れたことは勉強になりました。

これを通して、今まで前を通り過ぎるだけだったオフィスビルの中に、自分たちの生活を支えている製品や企業があると実感できたことが、貴重な経験だったと思います。



社員の人数や用途によって違うオフィス
<https://www.wework.com/ja-JP>より出典

②感想

現在大学三年生で就活中だという先輩の話が印象的でした。病気を持っている、持っていないに関わらず就活は、自分をアピールしなければいけないと言っていました。自分の得意なこと、好きなことを見つけるためにどんな課外活動でもまずは参加してみるといいと思います。

日韓みらいファクトリー フォーラム

1. 活動時期

2024. 7/20、7/27、8/3、8/19～8/22(合宿形式) 9/14

2. 参加のきっかけ

去年もこの活動に参加していたから。実際に韓国の人と会えるから。

3. 活動内容

この活動は日韓の大学生、高校生が共同で日韓の新しい交流空間を創造するプログラムです。総勢80人ほどが参加し、半々の確率で日本人と韓国人がいました。7月にzoom開催での事前研修が行われ、8月に東京で3泊4日の合宿形式の活動がありました。筑波大学主催のプログラムで、合宿では韓国大使館の方や文部科学省の方による演説も実施されました。

このプログラムの最大の利点は実際に韓国の大学生が来日し、6人から7人の日韓混ざったチームで4日間活動する事です。そのチームごとに日韓の共通の問題を解決するの為の新たなビジネスや設備などを考え、最終日に全員の前でプレゼンします。私たちのチームは日韓共通の地域の教育格差の問題にフォーカスし、地方の対面語学学習の活発化の為の企画を考えました。

4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

参加する前は韓国語を一切できない状況でうまくコミュニケーションが取れるか不安でした。また、引っ越し思案なところがあり、他の参加者と思っている事などを共有できるかどうかも心配でした。

しかし、いざ行ってみると来ていた韓国人の多くが日本語を上手く扱えており、それによりコミュニケーションは上手く進みました。また、日本語がわからない韓国人とも翻訳機や英語、ジェスチャーなど人の助けにより会話することが出来、周囲に多く助けられ、安心しました。多くが大学生で、高校生は80人中、5人ほどだったので、責任を負う側ではなく、気軽に頼り、自分が思っている事を言いやすい環境でした。その様な環境は珍しく、以前参加したどの課外活動よりも積極的に意見を言えました。

外国人との共同作業の一番の壁はやはり言葉でしたが、積極的に話すと快く返してくれたので、自分から行動する大切さと力をつけられました。年齢や国籍が違くても一つの目標で活動し、仲を深められる事をこのプログラムで体験したことにより、今後、より積極的に言語の壁を超えて交流が出来る能力が身につけられたと思います。

②活動中の面白かったポイント

2日目と3日目にチームごとの観光があり、自分以外大学生という不思議な空間での遊びは普段とは一味違った楽しみ方でした。最終日に訪問した韓国大使館は韓国の伝統的な庭が屋上にあり、興味深かったです。高1は一人もおらず、自分が一番年下だったので、不思議でしたが、多くの人に可愛がってもらえ、他の課外活動では体験できない環境になります。韓国人のお姉さんと仲良くなれて楽しかったです。

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

実際に韓国の人と対話し活動するという機会はとても貴重だと思います。最初は言語が理解できないと不安になると思いますが、いざ行ってみると想像以上に快適で有意義な時間を過ごせます。ぜひ積極的に参加してみて下さい。



高校1年 北田 真由佳

フィリピンスタディーツアー 2024 夏 -子どもとふれあい、 国際協力について考える旅-

1. 活動時期
2024.8/1～8/7

高校1年 清水 陽妃

2. 参加のきっかけ

過去に先輩が参加した活動として、学校から紹介されていたことや、世界で社会問題が起きているということを実際に目で見て感じたいと思ったからです。

3. 活動内容

フィリピンの先住民族である、アエタ民族のコミュニティで先住民族の生活を体験しました。また、村の小学校を訪問して授業をしたり、おかゆを配ったりしました。刑務所や虐待から救出された男の子たちの施設と、性的搾取の被害から救出された女の子たちの施設を訪問して、虐待の実体験を聞きました。スラムやゴミ山の訪問をして、インタビューを行い、子どもたちと交流しました。

夜には日本人同士で集まって、その日の振り返りや社会問題に対して自分たちが起こすことができるアクションについて話し合いました。

4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

ツアーに参加する前はどこか他人事のように考えていた社会問題が、実際に現地に行って、見て話を聞くうちに、自分は本当に恵まれた環境にいるということに気付かされました。自分は安心して住める家があって、道路も衛生環境も整っていて、優しい両親がいて、何不自由なく幸せに学校に通い、生活している。それが当たり前だと思っていたけれど、世界にはそれが当たり前ではない人がたくさんいることを感じました。しかし、そんな不自由な中でも現地の人は笑顔で私たちを迎えてくれました。私達が支援することでこの笑顔がもっと増えたら、もっと幸せに生きられるようになつたら良いなど感じたし、これから私も何か支援の手助けをしたいなと思いました。

②活動中の印象に残ったこと

一番印象に残ったことは、親から身体的、性的虐待を受けていた子どもたちから直接話を聞いたことです。自分と同年代の子達がそのような辛い目に遭っていたことは衝撃的で悲しく思いました。しかし、一緒に遊んだ時は明るくいい子達で、今が幸せだと話していて、セラピーを受けて辛い過去を乗り越えているのだなと感じました。今後、このような施設を広めたい、虐待を受ける子どもたちを世界的に減らしていきたいと強く思いました。

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

社会問題を実際に目で見て、話を聞くことは貴重な経験になると思うので、積極的に知ろう、感じようとすることが大切だと思います。また、自分が社会問題解決のために何ができるかを考えるきっかけになると思うので、ぜひ参加してみてください。



ひらめき☆ときめきサイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～

1. 活動時期 2024.8/21

2. 参加のきっかけ

classiで先生方が配信していたイベントのお知らせにてひらめき☆ときめきサイエンスについて知り、面白そうだと思ったからです。

3. 活動内容

ひらめき☆ときめきサイエンスとは大学や研究機関で科研費により行われている最先端の研究成果に、小学5年生から高校生を対象に直に見る、聞く、触ることで、科学のおもしろさを感じてもらうプログラムです。社会や地理、数学、物理、工学などいろんな分野があり、理系文系問わずに誰でも参加できます。今回私は城西大学にて城西大学現代政策学部が開催した「社会シュミネーションの世界へようこそ！ゲームで体験して学ぼう」に参加しました。いろんなゲームを通じて社会で行われてるシュミネーションについて学ぼうというものです。その他にも大学や学部によっては実際に大学の研究室で実験を行うことができます。

高校2年 女子生徒



4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

参加する前は、シュミネーションについて全く知らず、参加した後は企業や社会が行っているシュミネーションについて、例えば社会の需要に応じて企業が商品や政策を変えるなどのような知識を深めることができました。

②活動中の面白かったポイント

シュミネーションについて学ぶために色々なゲームをしましたが、みんな結構気楽にやって必死になって紙飛行機を飛ばしたり、協力するゲームなのに一回目で裏切り者が何人も出たりして色々面白かったです。また自分は異文化交流を趣旨とした2グループに分けてそれぞれに独自ルールを設けた大富豪をグループ内で行い、他グループのルールを当てようというゲームで自ら相手にボロを出すという戦犯をおかしました。

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

参加費が無料なので結構気楽に参加できて、大学生や大学教員たちともお話でき、大学や学部によっては大学についての説明を受けたりするので理系、文系問はずにぜひ参加してみてください。

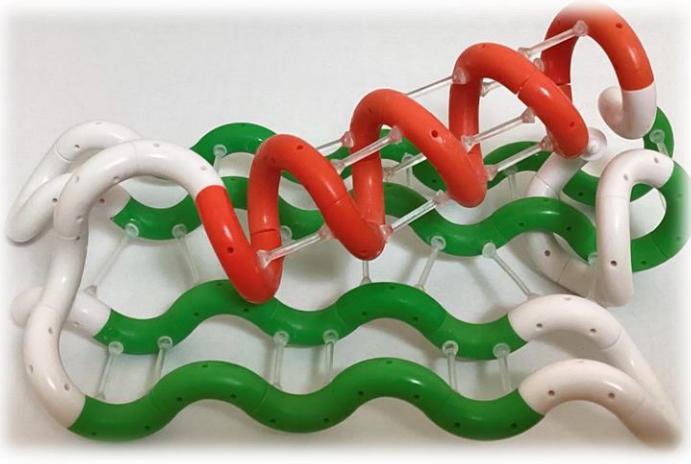
ひらめきときめきサイエンス かたちで決まる！タンパク質のはたらき

高校1年 女子生徒

1. 活動時期 2024.7/27

2. 参加のきっかけ

去年に続き、今年もひらめきときめきサイエンスの講座を受けようと思っていました。内容に興味があつたのでこの講座を選びました。



3. 活動内容

ひらめきときめきサイエンスは、日本学術振興会と連携し様々な大学が開催している講義や実験のプログラムです。今回の講座は千葉工業大学で受けました。

コンピューターや立体模型を使った実習がたくさんありました。コンピューターでいろいろなタンパク質の実際のかたちを見ました。また、一人ずつタンパク質の立体構造の模型を作りました(写真)。

他にも、ウイルスが体内で増殖する仕組みを学び、インフルエンザを阻害するための薬の開発に挑戦しました。ソフトで化学構造を描き、自分で考えて分子を設計するのはとても楽しかったです。

4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

授業で習っていたものの、なんだかよくわからなかったタンパク質について知ることができました。立体模型を作ったことで、 α -ヘリックスや β -シートなど実感が湧いて良かったです。

②活動中の面白かったポイント

どれも楽しかったですが、1番面白かったのは薬の設計です。自分で描いた二次元の分子構造が、ソフトを使って立体的になったときはとても嬉しくて、愛着が湧きました！

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

ひらめきときめきサイエンスには様々な体験プログラムがあるので、興味のある講座が見つかると思います。ぜひ参加してみてください！(他にも、一日体験化学教室という実験講座があります。こちらもたくさん開催されているのでぜひ探してください！！)

AU オーストラリア、シドニーで 保育ボランティア&ホームステイ

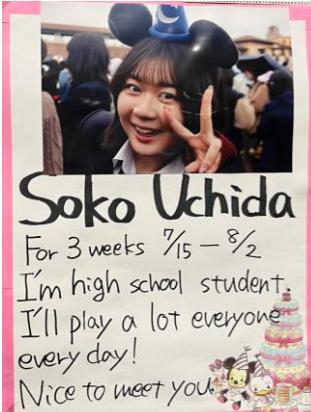


1. 活動時期

2024年7月15日～8月6日

2. 参加のきっかけ

友達が去年オーストラリアに行っていて話を聞くうちに興味が湧いた。スピーキングに力を入れて英語の勉強をしていたので実際に海外に行って英語を使って何か活動がしたいと思ったから。ホームステイについてもずっと経験したいと思っていた。



高校1年 内田 爽子

3. 活動内容

シドニー中心部から40分ほどの幼稚園で、保育士として、週五日9～16時で保育ボランティアを行なった。仕事内容は子供達のお世話で、一緒に遊ぶ、給食の配膳、掃除、トイレのお手伝いなど様々で、他の先生と業務は同じだった。私は一番上のクラス(4～5歳、的確には決まっておらず日によっては2、3歳の子たちも入ったりする)を担当し、クラス20人程に対して担任の先生と3人体制で活動した。また、日本文化の紹介として、自作した福笑いや、折り紙をして一緒に遊んだ。オーストラリアには様々なバックグラウンドを持った人たちが集まっていて、私のクラスには白人系の子やネパール、インド、フィリピン、中国などアジア系の子たちも多かった。退勤後にショッピングモールに寄って折り紙を買い足したりしたが、基本的にショッピングモールは5時に閉まるので平日は主にボランティア活動で1日が終わる感じだった。

ホームステイ先はシドニー中心から電車で50分ほどで一人暮らしのおばさんと2人で暮らし、途中から韓国人の高校生2人も合流した。週末には1人で中心地に観光に行ったり、ドライブに行ったりして有意義に過ごすことができた。ただ、南半球なので8月に行くと真冬だったのでとても寒かった。



4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

参加する前は幼稚園やホームステイ先で英語が伝わるか、学生だから放っておかれたりしないかななど、不安があった。なので活動先やホストマザーに信頼してもらえるように、事前にメールでのやり取りを何回かして、自分の写真を送ったりもした。個人手配で行ったためエージェントと何回も連絡を取り合って、万全な状態で出国できるようにした。

いざボランティアに行くと子供達も先生も、私を学生のボランティアというよりも先生というように接してくれたのでとても嬉しかった。ボランティアは私1人だったので手厚くサポートしてくれて、ランチも一緒に食べてくれた。活動中に不安になったり嫌な思いをしたことは一度もなく、英語に関しては子供の発音が曖昧で聞き取りにくかったという以外は困らなかった。

②活動中に面白かったポイント

脱いだ服の山で、どれが誰の服かをみんなで思い出して着せる時、みんながバンザイをして私が着せるのを待ってくれて面白かった。毎朝クラスに入ると、SOUKO～！！と叫んで私の足にしがみついてきたり、お昼寝の時にママが寂しくて泣いてしまったりと、どんな時でも子供達が可愛かった。

ある時に女の子が単語を言っているのに先生何人かで聞き取ろうとしてもダメで、私がその子の言っていることを当てたらすごく盛り上がって、教員たちでお祭り騒ぎになって面白かった。

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

不安があつたら周りの人へ聞いたり、解決するための行動を起こす。名前を覚えてもらえるか不安だったので名札を作り毎日つけたり、幼稚園のドアにプロフィールの紙を貼ってもらって、先生や保護者の人にも覚えてもらえるようにしていたが効果があったのでおすすめです。仕事が与えられるのではなく自分から見つける、代わる、というのがポイントです！



World Ship Orchestra summer project 2024 in Philippines

フィリピンの子ども達に初めての音楽体験を

1. 活動時期

2024.9.3～9.9

2. 参加のきっかけ

学校のホームページで、過去にこの活動に参加した卒業生の先輩の活動記録を見て、興味を持ったから。

高校1年 藤本奏斗



3. 活動内容

World Ship Orchestra(略称WSO)は日本国内で演奏者を募集してオーケストラを編成し、主に東南アジア各国(カンボジア、フィリピン、インドネシア)で学校訪問公演などを行う団体です。ベネズエラ発祥の音楽教育プログラム「エル・システム」をモデルとし、普段クラシック音楽やオーケストラに触れることのない人や子ども達に音楽を届ける活動を行っています。今回私が参加した24年夏フィリピンプロジェクトでは、現地のショッピングモールでのフラッシュモブ公演、3校で行った学校訪問公演や現地の楽団と共に演じて行う最終公演を行いました。さらに、この団体初となるスラム街であるトンド地区の最貧困地域「ハッピーランド」での公演が実現しました。また、トンド地区で音楽を学んでいる子ども達で組織されたSPAPCOという音楽団体とのワークショップも開催し、英語でコミュニケーションを取り、楽器を教える機会もありました。

4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

ハッピーランドでの公演や家庭訪問を通して、今まで存在や名前くらいしか知らなかった「スラム街」に実際に行き、社会的格差や過酷な生活状況を目の当たりにしたこと、格差や貧困などの社会問題に対する見方が大きく変わりました。また、実際にスラム街の生活を目の当たりにし、教科書には載っていない、現地に行って音楽活動をしたからこそ知れたこと、感じたことも多く、とても有意義な経験だったと思います。



②活動中の面白かったポイント

まず何より、異国の方で子ども達に音楽を届けるという滅多に出来ない貴重な体験ができたことです。フィリピンの子ども達の盛り上がりは日本では考えられないほどで、1曲終わるたびに大歓声でした。日本人のメンバーや現地のスタッフと一緒に食事を共にし、親交を深めるのもとても楽しかったです。

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

WSOでの活動は日本国内で普通に音楽をやっているだけでは絶対に経験できないとても貴重な体験です。「現地の子ども達の人生を変えること」がプロジェクトの最も重要な目的ですが、それを実現できた時、同時に自分の人生、価値観、物の見方なども大きく変わります！音楽を課外活動やボランティア活動などに活かしたいという人に本当におすすめの活動です！ぜひチャレンジしてみてください！

TOKYO GUNDAM English Guide

1. 活動時期 2024.10.6

高校1年 石井 里桜奈

2. 参加のきっかけ

通訳に興味があったのですが、たまたまこの活動をインスタで見かけたので応募しました。

3. 活動内容

東京都の体験型英語学習施設「TOKYO GLOBAL GATEWAY(TGG)」において、英語学習プログラムを体験し、そこでの体験をもとに、実物大ユニコーンガンダム立像(ダイバーシティお台場)周辺に訪れる外国人観光客へ話しかけオリジナル英語MAPを使いながら、ガンダムの説明や、臨海副都心エリアの観光情報を英語で紹介する。



4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

見知らぬ外国人に自ら話しかけに行くことに抵抗があったのですが、徐々に体験を積んでいくにつれ緊張もほぐれ色々な人と英語で会話を楽しむことができました。

②活動中の面白かったポイント

外国人の方は基本フレンドリーな方が多く快く会話をしてくれたためたくさん話すことができました。自国での暮らしを詳しく教えて下さった方もいて日本との環境、文化の違いを感じることができました。国ごとに英語の訛りがあることに気づき聞いててすごく興味深かったです。日本のアニメをよくみている方とお話しした際、好きなキャラクターの話で盛り上がりとても楽しかったです。2時間しかなかったですが、約20名の人達とたくさん話すことができてとても貴重な体験になりました。

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

私達は学生で英語を学びたいので「良かったら話しませんか、良かったら写真を撮りましょうか、何かお手伝いしましょうか」と言うと怪しまれず喜んで話してくれるのです。外国人はほんとにフレンドリーな方が多くて話しててすごく楽しいので是非取り組んで見てください。きっと良い思い出になると思います。

D4C Camp 2024

～mono-coto-innovation～

1. 活動時期

2024.9/14～9/16

高校1年
佐々木 結香

2. 参加のきっかけ

以前参加した別の課外活動の公式LINEからのお知らせで知り、「進路選択に役立つ」「参加費無料」という言葉に惹かれたからです。



3. 活動内容

D4C Campは、テーマ専門家の講演を聴いてワークショップと振り返りをし、自分が興味のある社会問題を見つけて進路選択に役立てる、という中3～大2の40人が参加する2泊3日のキャンプです。2024年のテーマは、貧困、食料安全保障、水と衛生、ヘルスケア、インクルーシブデザイン、環境、地方創生の7つでした。

毎晩キャンプファイヤーとマシュマロ焼きや、最終日のBBQなど、レクリエーションの時間もたっぷりありました。



4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

自分が何に興味があるのか、どんな考えを持っているのかなど、自分のことを改めて知る機会になりました。私は、友達の課外活動の参加量に焦りを感じ、何かに参加しなければ、と思っていました。この活動を終えてからは焦りがなくなり、自分に自信を持てるようになりました。また、年上の参加者やテーマ専門家に進路相談ができる機会がたくさんあり、文理選択に役立ったので参加してよかったです。



②活動中の面白かったポイント

どの講演も面白く、新しい学びや発見があり、受けたよかったです。また、起業家、帰国子女、課外活動情報サイト運営者など、様々な背景を持つ参加者と話すことで刺激を受け、今後の活動のモチベーションになりました。

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

アウェイな場所で2泊3日も初対面の人と活動するのは自分にはハードルが高い！と思っていたが、実際に参加してみると不安より楽しみが勝ちました。「何か課外活動をしておこうかな」「友達がたくさんきて楽しそう」などの軽い気持ちで参加してもいいと思います。このポスターを読んだのを期に、D4C Campや別の課外活動に、他人事と思わずぜひ挑戦してみてほしいです。

MONO-COTO INNOVATION 2024

1. 活動時期 2024.8/6~8/10

高校1年 森 愛

2. 参加のきっかけ

インターネットで見つけて、ものづくりが好きなので参加してみた。

3. 活動内容

この活動は中高生が学校の枠を超えてチームを組み、デザイン思考を活用しながら革新的なアイデア創造に挑戦するものです。私は「新しい音楽体験のデザイン」というテーマで、グループでアイデアを出し、試作品を作ったりプロトタイプテストをして、価値検証にも取り組み、最終日にヤマハ株式会社の方々の前でプレゼンをしました。



4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

プロトタイプテストで「面白くない」と厳しい意見を言われるなど、壁にぶつかることがありました。しかし、チームで協力して最後までやり遂げることができたときは達成感をすごく感じました。積極的に意見をいう力や、チームの雰囲気作りの重要性を学べました。

②活動中の面白かったポイント

アイデアを出してからテストをして、プレゼンをするまで全4日程度ありましたが、その間に、いろんな企業の方が作業を見に来てください、メンタリングやショートピッチを通してアドバイスをしてくださいました。私たちのアイデアを真剣に聞いて褒めてくださったことは自信に繋がりました。

また私のグループの同じ学年の友達は、高校1年生なのに将来設計や起業することが決まっていると言っていてすごく驚きました。このような友達と繋がりを持てたのは、貴重な経験だと思います。

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

私は「デザイン思考」をこの活動で初めて知って、初めは難しそうだと思っていましたが、参加した後思ったことは「めちゃくちゃ面白かった！」です。迷っているならぜひやってみてください。プレゼンの後にはお疲れ様パーティーもありました笑。何度も参加できるので私も来年参加しようと思いました。

「ゲノム編集」ウェブスクール

1. 活動時期 2024.8.22

高校1年 宮崎 彩叶

2. 参加のきっかけ

classiで先生から配信されて、興味を持ち参加を決意しました！

3. 活動内容

生物が持つゲノムの中の、特定の塩基配列(DNA配列)を狙って変化させることができるゲノム編集。最近できたばかりでまだ知らない人が多く、専門家の人们がゲノム編集の基本的なことから教えてくださったり、中盤からはゲノム編集のメリットデメリット、動物で実践した時の結果や画像、これからの医療においてのゲノム編集の活躍の予想などをする講義でした。ゲノム編集の存在すら知らなかった私ですが、講義の先生達のわかりやすく具体的な説明ですると理解に苦しまず、楽しみながら講義を受けてました！

4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

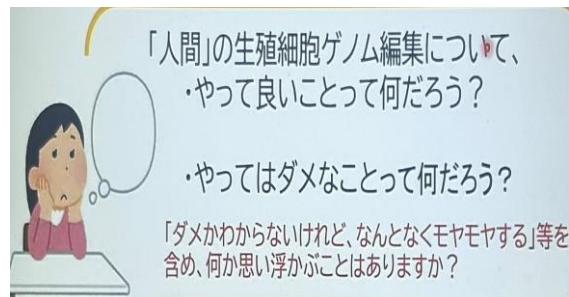
ゲノム編集は簡単に言ってしまうと遺伝子を変えて、病気などを防いだりするものでいわゆる、予防のようなものです。私の中での医療は病気にかかったら薬で治したり、手術をするなどどちらかというと後出しというイメージでした。そんな中、先出しのゲノム編集という物に出会えて医療のイメージ自体が少し変わりました！また、遺伝子を組み替えることができるようになると学び、どんどん医療も姿を変えて行くんだな。もしかしたら今後病気にかかることが少なくなるかもと、未来の医療に強く関心を持つきっかけなれて、今私は放射線治療の将来性、危険性など医療について調べる機会が増えました！

②活動中の面白かったポイント

中盤に実験で動物でゲノム編集を試した時の動画と結果を見させていただいた後、じゃあ人間ではやっていいこととダメなことがなにか一緒に考えて意見を出していこう！という時間がありました！考える時間が与えられて他の人の意見を聞いてなるほど！と思えたり、珍回答を出して場を盛り上げたりした人もいてすごく楽しかったです！専門家の先生達は私達学生の意見を親身になって聞いてくれてそれがすごく楽しかったです！

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

実はゲノム編集は私の初めての課外活動です！始まる前はすごく不安でしたが講師の方達が優しく丁寧に教えてくれます！そのおかげで私は今他の課外活動にも参加できています！初めてにすごくおすすめです！事前にゲノム編集について調べたら絶対さらに楽しいです！



みのかもサマースクール 高校生・大学生と地域課題に取り組む8日間

1. 活動時期

2024.8/1～8/8

2. 参加のきっかけ

学校の先生からのおすすめで知り、地域の大人たちが日々向き合っている地域課題についてとことん考えてみたいと思ったのもきっかけの一つですが、参加費用が全て無料だったのがやってみたい！と思った一番の理由です(笑)

3. 活動内容

岐阜県の美濃加茂市で1週間、市内の高校生と全国の高校生、東大1年生と一緒に5人のチームを組み、与えられたテーマについて地域活動に参加したりヒアリングを通して市役所の方々が日々悩んでいる課題がどうしたら解決していくかを考えていくというもので、普段より詳しく物事を見つめ、チームで深掘りしていきます。最終日にはチームごとに1週間の成果をプレゼン形式で市内関係者の方々の前で発表しました。

1週間、ほとんど毎日ヒアリングとそれを踏まえたチームでの話し合いをする日々だったので、文面だけだと内容があまり見えてこないと思うのですが、正直1週間では足りないくらい濃厚でとにかく充実した1週間でした！

高校1年 富田 凜音菜



4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

チームで話し合うことの楽しさを知ることができました。普段の学校の授業でグループで

話し合う時は、自分の意見を言って間違ったことを言ってしまっていたら恥ずかしいなと思い

あまり自分の意見を言えないのですが、このサマースクールでは自分の殻を破って自分の意見を積極的に言うことを心がけました。チームで話し合うとお互いが思っていた前提が違うことがあったりして、そこから見つかる新しい視点は1人では絶対に見つけられないものだと思いました。



②活動中の面白かったポイント

私のチームは美濃加茂市での多文化共生について考えるチームだったので、美濃加茂市在住の外国人の方々が集まるワークショップに参加した際に、美濃加茂市を第二のふるさとと思って生活できるようになりたい、など生の声を聞けたことがすごく貴重だったしその後のチームでの話し合いでも、市内在住の外国人の方々の意見はとても参考になりました。

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

地域課題を深掘りしていってどうしたら解決できるか、何が問題なのかをひたすら考える1週間は、具体的にこうするべき！という答えが簡単に見つかるものでは無いけれど、1週間後、サマースクールに参加する前の自分よりも成長できたと感じられると思うし、何よりも素敵な友達に出会えると思います！

BLUE LAKE FINE ARTS CAMP

中学3年 富田 早稀

1. 活動時期

2024/6/26～7/21

2. 参加のきっかけ

音楽と英語の勉強ができるところを探し、このキャンプを見つけて参加することにしました。



3. 活動内容

「BLUE LAKE FINE ARTS CAMP」はアメリカのミシガン州にあり、さまざまな芸術活動に取り組むサマーキャンプで、約60年の歴史があります。私はその中のオーケストラキャンプに参加しました。10人ほどでキャビンの中で生活し、自由時間や、夜にはコンサートがありました。オーケストラの合奏や個人での練習など、キャンプ生活はとても忙しく充実していました。

4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

参加する前は、初めてのアメリカ本土で、家族とも連絡があまり取れない環境で英語で生活しなければいけなかつたため、とても不安でした。参加した後は、英語や音楽だけでなく、たくさんのこと学べたと心から感じました。楽しかったことも、大変だったことも含めて、本当に良い経験になりました！英語を話せると本当にたくさんの人と話せるんだということを改めて実感しました。

②活動中の面白かったポイント

キャンプでは、とても短いズボンを履く日や、猫耳をつける日など曜日ごとにテーマがあつてとても楽しかったです！いつでもアイスクリームを食べられるのも魅力の一つです！



～このような開放的な場所で仲間たちと練習していました！～

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

自分のことをどんどん周りの人に伝えることが大事だと思います！海外留学は本当に楽しい貴重な経験になるので、ぜひチャレンジしてみてください！

The World Scholar's Cup Tokyo Round 2024

1. 活動時期
2024.4/28~29

高校1年 吉田 莉子 岡田 結嗣
脇田 輝基



2. 大会の概要

The world scholar's Cup(略称WSC)は、中高生の総合的な教養を競う大会です。2006年に韓国で始まり、以降世界各国で国内大会が開かれるようになりました。毎年60以上の国で国内大会が開かれ、世界中で2万人以上の学生が参加しています。

大会は3名1チームの団体戦です。競技内容は、予め膨大な資料を与えられ、大会までに各自リサーチを行い、それに基づいたチームディベート・エッセイライティング・テーマ演習問題など、全て英語で行われます。出題分野は、文学・芸術・科学など総合的に出題されます。

3. 大会結果

- ・チームディベート部門1位(全100チーム中)
 - ・チーム総合12位(全100チーム中)
- ～準備したこと～
- ・大会の3カ月程前から週1回Zoom上でディベートを練習し、大会直前は他校との試合など実践練習。
 - ・教科については、膨大な課題を3人で分担し、それぞれ勉強をした内容を共有。



4. 感想

- ・吉田：練習を重ねるにつれチーム内の結束も強まり、とても信頼できる仲間になれたことは戦う中での大きな強みとなりました。次のラウンドに向けて、足りない点をしっかり補い世界大会での上位を目指し挑戦します。
- ・岡田：WSCで一番嬉しかったのは、ディベートで優勝したことです。私はディベートを今まで一度もやったことがありませんでしたが、脇田君のお陰でディベートの勉強を積極的してくれたことで良い結果になったと思いました。
- ・脇田：ディベートは良かったものの、教科の勉強では不甲斐ない結果になってしまい、明らかな勉強不足でした。世界大会ではもっと頑張りたいです。



5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

・岡田

私は先生に勧められてWSCに参加しました。最初はあまり乗り気ではなく、ちゃんとできるのかなと不安でしたが、信頼できるチームメイトがいたので自信を持ました。課外活動を恐れずに一步踏み出してチャレンジしてみてください。

中高生のための英語×探究プレゼンコンテスト 第7回 Change Maker Awards

1. 活動時期

2023. 11月
～3月24日

2. 参加のきっかけ

学校の先生から勧められ、興味を持ち参加を決意しました。

3. 活動内容

CMA(Change Maker Awards)は、中高生のための英語プレゼンテーションコンテストです。自分が夢中になっている「探究」について、英語4技能とプレゼンテーションで競います。私は、『世界の情報が偏らないためにはどのような教育が必要なのか』について研究をしました。中学生の時から積極的に参加していたディベート大会や、模擬国連を絡めながら、どのように世界を変えるかを考え、プレゼンしました。

高校1年 服部 鈴



4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

参加することで、世界の様々な社会問題に対して興味を持つことができました。全国大会では、研究に地域を挙げて活動している方やチームがいたり、学生生活をこの活動に費やしたという高校3年生も多く、とてもレベルが高かったです。参加者の発表テーマが様々で、カタツムリを使用して海岸汚染を解決する方法を提案した人もいれば、テコンドーの不正を審査するセンサーを開発した人もいました。このように今まで触れたことのなかった先輩方の多様な分野の研究を聞くことができ、非常に刺激を受けました。

また、自分の研究をしていくうちに、自分が何に興味があるのか、将来何をしたいのかが少しずつ明確になっていきました。自ら調べるからこそ新しい発見や意見が生まれることを実感しました。

②活動中の面白かったポイント

参加者のプレゼンは、全て興味深かったです。特に、アマモという海藻で醤油を作った参加者の食を通じて社会問題を解決しようとしている所に感興を持ちました。彼女は岡山県の学校に在校していて、地域の方々に支えられながら活動をしているらしいです。このような面白い発想と沢山の活動をしている同世代の方々と時間を共有でき、お互い連絡先を交換できてこれからも刺激し合える仲間が出来たことが1番の宝です。

また、審査員の方々は日本はもちろん世界で活躍されている国際弁護士やCEOなど、テレビで見るような著名な方々でした。普段の生活では中々直接話せる機会がない先生方と大学の話やアプリ開発のコツなど身近に会話ができる時間もありとても貴重な経験でした。



5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

私の研究は、リベラルアーツ教育という大きなテーマでしたが、他の参加者の中にはカタツムリや金継ぎ、エコバックなど具体的なことに着目して研究をしている方多かったです。当たり前の日常の中に研究のきっかけが潜んでいるので、日々色んなことに興味を持ち、自ら調べてみようという意識があるといいと思います。小さな気付きでも、こんな事と思わず、挑戦して欲しいと思いました。

高1グローバル講座2024

1. 活動時期

2024.4.19–2024.4.26

2. 参加のきっかけ

市川の先輩から勧められた

3. 活動内容

放課後に2回に渡って学校外の方の授業を受け、各班違ったお題についてのプレゼンをしました。

4. 発表内容

「NGOで世界の抱える問題解決に取り組む」という課題に対し私たちはUniversity of missions to worldという大学を運営するNGO団体を提案しました。この大学では在学している4年間で2~4カ国を周り、それぞれの専門分野(教育、農業、環境、医療のいずれか)について学ぶことができます。先進国の学生は自国の技術を使い途上国の支援を、途上国の生徒は先進国に自ら学びに行きその知識を自国に持ち帰り課題解決に貢献することができます。

University of missions to worldは世界のあらゆる課題に対してそれぞれの分野専門の学生が解決すると同時に、国内外両方でのグローバル人材の育成ができ、それが既存の留学プログラムや大学にはない強みです。

5. 参加した感想

①参加する前と後の変化

日本国内の問題やそれに対するビジネスは知っていたが、あまり国外のビジネスに注目したことことがなかったので視野が広がった。

②活動中の面白かったポイント

話したことのない他クラスの人や高入生との交流ができたことが面白かった。

6. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

将来求められる人材とは何かなど役に立つことを教えていただくことができます！海外大に行きたい人や、留学に行く人、起業したい人などは絶対行ったほうがいいです！自分が何に興味があるのかわからない人や何をすればいいかわからない人にもおすすめです！！

高校2年 小河原 舞



学生がオンラインで授業を受けながら
世界各地で活躍し、自國に貢献できる大学

概要説明

ミネルバ大学
大学4年間で世界各国を周る

×

青年海外協力隊（JICA）
発展途上国の開発支援を現地でサポートする

モデル校 参加国

先進国



アメリカ
語学



フランス
教育



ドイツ
医療



フィンランド
環境



日本
農業

後発途上国



カンボジア
教育



スリランカ
医療



フィジー
環境



コートジボワール
農業

2023年度 ニュージーランド研修

1. 活動時期

2024.3/17～3/27

高校1年

藤田 香織

2. 参加のきっかけ

以前に海外研修に参加した経験を活かし、さらにレベルの高いホームステイに挑戦したいと思ったから。

3. 活動内容

宿泊は、出発日と帰国日を除きホストファミリー宅。

4日間の授業日と3日間のホリデーがある。授業は午前は講師との双方向授業。午後は観光、文化体験、演劇などのアクティビティを行う。ホリデーは、3日間ホストファミリーと過ごす。観光やショッピングに行くことが多い。



4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

軽い気持ちで申し込んだので、英語には自信がなくホームステイにはとても不安がありました。特にホリデーでは日本人に一切会わないので、常に英語での会話になります。しかし、ホストファミリーは私の拙い英語を最後まで聞いてくださり、私が理解するまで何度も同じ内容を話してくれました。急に話すと不完全で短い言葉しか出てこないけれど、それでも理解してくれるという経験により今ではもっと英語で話したいと思えるようになりました。

②活動中の面白かったポイント

授業が双方向で何度も発言できる雰囲気だったので、「勉強」という感じがせず今でもとても記憶に残っています。良い発言をするとお菓子をもらえるし褒めてもらえるので、大勢の方が手を挙げて発言していました。文法を間違っていても講師の方は理解してくれて、より良い英語になるようにアドバイスを貰えたことが嬉しかったです。

ホストファミリーとはたくさんの話をしました。特に覚えてるのは、日本とニュージーランドの政治や男女格差について話したことです。難しい内容なのでなかなか言葉が出てこなかったのですが、自分の意見を伝えることができました。また、ホストファミリーは陽気な人たちで、常に話しかけると返してくれるので楽しかったです。



5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

英語が苦手と思っている方こそぜひ参加してほしいです！文法ばかりの勉強とは全く違う視点から英語と向き合ってみませんか？私は中3の時にこの研修に参加したのですが、話していたのはほとんど中1レベルの簡単な英語ばかりです。そんな私でも今でも関係が続いているほどのホストファミリーに出会えて、楽しい思い出を作ることができました。とにかく自分から話しかけて、分からなければ何度も聞き返すことが大事です！

多国籍の人たちと交流する ～オーストラリア・シドニー～

1. 活動時期 2024.3.16～2024.3.30

高校1年 兼吉 舞衣

2. 参加のきっかけ

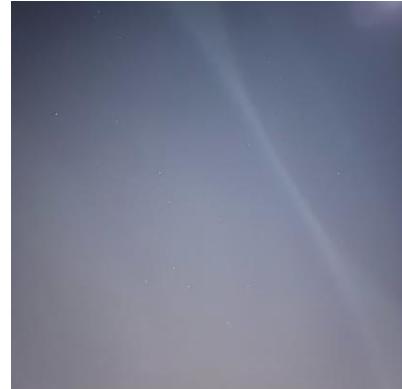
海外研修に興味があり、多国籍の外国人と交流できると思ったからです。



シドニーのオペラハウスとハーバーブリッジ



授業後、シドニー各地を案内してくれた
コロンビア出身の先生



午前5時ごろに撮った星空。南半球でしか見られない星座を観察することができました

3. 活動内容

中3の春休みに、オーストラリアのシドニーで2週間、短期留学しました。平日の午前中は現地の語学学校で、英語の授業を受けました。授業後の空き時間はシドニー各地を散策しました。語学学校の先生はオーストラリア・ベルギー・コロンビア・アイルランドなど多国籍でした。また、それらの先生方に出身国の文化についての質問に答えてもらいました。

4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

積極性の大切さを学びました。参加する前は、英語力に自信がなく、とても不安でした。そのため、オーストラリアに留学してから最初の3日間は、カルチャーショックを受け、本場の英語力についていけなくて積極的に行動できませんでした。しかし、先生に質問したいことがたくさん浮かんでいたので、勇気を出して質問してみると、面白い回答が得られました。その後は先生に積極的にたくさん質問でき、とても仲良くなれたと思います。

②活動中の面白かったポイント

授業後の空き時間に、シドニー各地を約10km歩いて移動しました。日本では10kmも歩かないのに、現地の人がとてもアクティブなことに驚きました。また、語学学校のコロンビア出身の先生に先生の出身国特徴的な事実を尋ねてみると、政治家や高い地位にいる人は、名前の前に「医者」と呼ばれることを好むとおっしゃっていました。日本にはない文化なので、面白かったです。

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

海外に短期留学する場合、あっという間に終わってしまいます。また、英語力よりも積極性が留学の楽しさを分けると思います。自分のやりたいことを事前に決めて、積極的に行動できるように頑張ってください。

みんなに見せて伝える！ 防災展示アイデアコンクール

1. 活動時期

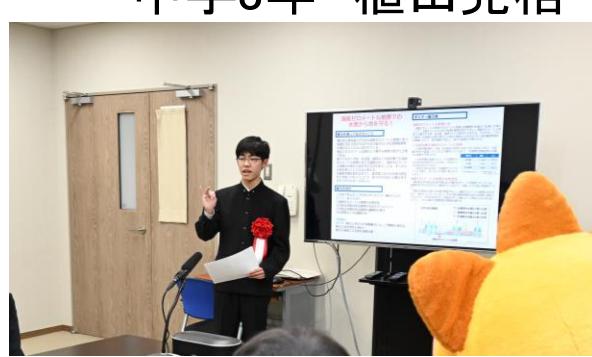
2024.7月～9月

2. 参加のきっかけ

気象庁HPでこのコンクールを見つけ、小学3年の時から興味を持ち、調べ、自由研究などで発表してきたことを広く世間の人々に広められると思ったので参加しました。

3. 活動内容

このコンクールは気象科学館に展示するための防災に関する展示のアイデアをA3用紙5枚にまとめて提案、発表するものなので、まず展示を通してどのようなことを伝えたいかを考えました。僕は「海拔ゼロメートル地帯での水害から命を守る！」をテーマにしました。夏休み期間中に小学生の頃に作成したレポートを読み返し、それを基に要点をまとめたポスター展示案と地形による浸水時間の違いがわかる装置と想定浸水深を体験できる装置を提案しました。



4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

これまで蓄えてきた知識や経験をこのコンクールでまとめることで今までの知識を整理できました。また、今までの研究では地元の江戸川区での水害を中心に考えていましたが、今回の研究を通して全国の海拔ゼロメートル地帯での水害についても研究し、江戸川区と対策や水害の特徴などの観点から比較してみたいと思うようになりました。

これまで自分の研究について発表する機会が少なく、多くの人に海拔ゼロメートル地帯での水害の恐ろしさを知つてもらう機会がなかったのですが、今回のコンクールを通して、この研究や海拔ゼロメートル地帯での水害のことを知つてもらいたいという気持ちが強くなり、この研究で様々な課外活動に参加してみたいと思うようになりました。

②活動中の面白かったポイント

水害の恐ろしさやその時の避難方法について大人だけでなく、小さな子供たちにもわかりやすいような体験展示を作りましたので、どのような工夫をすればわかりやすく伝えられるのかを考えることが面白かったです。

小学生の頃の話になりますが、膝までの深さの水の中を歩いて浸水してからの避難の難しさを体験したり、防災バックを背負って浸水しない地域まで歩けるか試したりすることで本などで調べるだけではわからないことがわかつたことが面白かったです。

また、気象予報士の先生や地域の防災課の方々、地域の水害について研究されている方などのお話を聞き、知見を深めることができたことが面白かったです。

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

生活の中で少しでも興味を持つことを見つけたら調べてみたり、試してみたりすることが重要だと思います。それを深めることで様々な人や分野、本との出会いも生まれ、一生物の思い出になると思います。自分の興味を抑えることなく、自分を信じて行動してみてください。自分の興味を伝えたくなったら課外活動はうってつけです。その時はぜひ課外活動にチャレンジしてみてください。

